古文編　**古文入門　大江山（おほえやま）［十訓抄（じっきんせう）］**　（自習プリント）

▼語釈▲

『これからの古典文法』の「古文単語編」を使って、次の語の品詞と意味を調べよう。（巻末の索引を利用してください。）

①　遣はす（二〇・3）　②　参る（二〇・3）　③　心もとなし（二〇・4）　④　おぼす（二〇・4）

⑤　あさまし（二〇・9）　⑥　おぼえ（二一・2）

▼読解のポイント▲

1　この場面に、実際に登場している人は誰ですか。また、主人公と副主人公はそれぞれ誰ですか。

2　「定頼中納言たはぶれて」（二〇・2）とあるが、定頼は小式部内侍をどのような歌人だと考えていたのか、簡潔に説明しなさい。

3　「丹後へ遣はしける人」（二〇・3）について、誰がどこに何のために「(使いを) 遣はし」たと定頼は言っているのか、。簡潔に答えなさい。

4　「①局（つぼね）の前を過ぎられけるを、②御簾（みす）よりなからばかり出（い）でて」（二〇・4）の傍線部①②の主語をそれぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

5　「直衣（なほし）の袖（そで）をひかへて」（二〇・5）の傍線部の現代語訳を次の中から選びなさい。

ア　ひっかけて　イ　つかんで　ウ　払いのけて　エ　引きちぎって

6　「大江山…」（二〇・6）の歌で、小式部内侍が定頼に伝えたのはどのようなことか。次の空欄に本文中の語句を補いなさい。

自分が詠む歌は、けっして（　　　　　）に依頼したものではないということ。

7　「大江山…」（二六六・6）の歌から掛詞（かけことば）を二つ抜き出し、それぞれに掛けられているものを漢字を使って答えなさい。

・掛詞（　　　　）は（　　　　）と（　　　　）を掛けている。

・掛詞（　　　　）は（　　　　）と（　　　　）を掛けている。

8　「返歌にも及ばず……逃げられけり」（二〇・8）とあるが、誰が、なぜ、そのような行動をとったのか、答えなさい。（読解3）

9　この出来事によって、小式部内侍が得たものを本文中から三字で抜き出しなさい。

▼要点の整理▲

次の文の空欄に本文中の語句を補いなさい。

歌人として有名な（　①　）が夫と丹後に下ったとき、娘の小式部内侍（こしきぶのないし）が歌合（うたあわせ）に参加する（　②　）に選ばれた。

藤原定頼（ふじわらのさだより）は、小式部内侍をからかおうと、その（　③　）の前で、「母に歌の代作を依頼するために（　④　）へ行かせた人はもう帰ってきましたか」と言ったところ、小式部内侍はすかさず

「大江山を越えて生野（いくの）へ行く道のりが遠いので、丹後の（　⑤　）はまだ踏んでみたことがなく、母からの手紙も見ていない」

と詠んだので、定頼は、その歌の素晴らしさに驚いて、（　⑥　）もできず、逃げて行った。これ以来、小式部内侍の評判は高まった。